

平成 2 9 年 9 月 1 4 日

山口県教育委員会会議議案

山口県教育委員会

議案

番号	件名	主管課
1	山口県教育委員会表彰規則による表彰について（報告承認）	教育政策課
2	平成29年度山口県教育委員会の点検・評価について	教育政策課
3	損害賠償の額を定めることに関する専決処分についての意見の申出について（報告承認）	教育政策課
4	損害賠償の額を定めることに関する専決処分についての意見の申出について（報告承認）	教職員課

議案第1号

山口県教育委員会表彰規則による表彰について(報告承認)

山口県教育委員会表彰規則(昭和61年山口県教育委員会規則第6号)第2条の規定に基づき、平成29年度教育功労者を次のとおり決定したので報告し、承認を求めます。

平成29年(2017年)9月14日

山口県教育委員会
教育長 浅原 司

永年精勤の部(表彰規則第2条第6号)

所属名	職名	氏名	勤務年数	備考
萩市立 むつみ中学校	教諭	権代 知	34年	平成29年8月31日 早期退職

議案第2号

山口県教育委員会の権限に属する事務の点検・評価について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条第1項の規定に基づき、平成28年度の山口県教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、別紙「平成29年度山口県教育委員会の点検・評価報告書」のとおり点検及び評価を行い、これを平成29年9月定例県議会に提出するとともに、公表する。

平成29年（2017年）9月14日

山口県教育委員会

議案第3号

損害賠償の額を定めることに関する専決処分についての
意見の申出について（報告承認）

このことについて、別紙のとおり知事に意見を申し出たので、報告して承認を求めます。

平成29年（2017年）9月14日

山口県教育委員会

教育長 浅原 司

損害賠償の額を定めることに関する専決処分についての意見の申出について

1 事故の発生日時

平成29年1月20日（金）正午頃

2 事故の発生場所

山口市鑄銭司地内

山口県立山口南総合支援学校敷地内

3 損害賠償の相手方

山口市吉敷下東2丁目8番3号

野村 恵

宇部市大字妻崎開作1071番地2 ハーモニア201号

松木 理世

宇部市大字東岐波2124番地1 レジュール木船1棟102号

吉田 啓

4 事故の概要

山口県立山口南総合支援学校敷地内において発生した同学校の焼却場から飛散した屋根ふき材が駐車中の自動車に当たったため同自動車が損傷した。

5 損害の程度

人身の損害 なし

物件の損害 車両損傷

6 損害賠償の額

金532,386円

内訳

車両修理費532,386円

7 専決処分年月日

平成29年9月 日

議案第4号

損害賠償の額を定めることに関する専決処分についての
意見の申出について（報告承認）

このことについて、別紙のとおり知事に意見を申し出たので、報告して承認を求めます。

平成29年（2017年）9月14日

山口県教育委員会

教育長 浅原 司

損害賠償の額を定めることに関する専決処分についての意見の申し出について

1 事故発生日時

平成29年4月24日（月） 午後0時26分頃

2 事故発生場所

美祢市伊佐町伊佐 美祢市民球場敷地内

3 事故の相手方

柳井市南町7丁目4番1-201号 山本修二

4 事故の状況

山口県立山口農業高等学校教諭が、大会終了後帰校するため、公用車であるマイクローバスを方向転換のためバックしたところ、公用車の後方バンパーと、駐車してあった相手車両の左側面が接触した。

5 損害の程度

(1) 相手方

ア 人的損害 ～ なし（無人）

イ 物的損害 ～ 左側面前方ドア、ドアミラーを一部損傷

(2) 県側

ア 人的損害 ～ なし（運転手、同乗者）

イ 物的損害 ～ 後方のバンパーを損傷（軽微なこすり傷のため修理なし）

6 過失割合

県側100% 相手側0%

7 損害賠償の額

金248,964円

（内訳）

物損賠償額

車両修理費 181,764円

レンタカー代 67,200円

人損賠償額 0円

報告事項

番号	件名	主管課
1	平成30年度(2018年度)山口県立学校職員(実習助手・寄宿舎指導員・船員)採用候補者選考試験の実施について	教職員課
2	平成29年3月公立高等学校等(全日制・定時制)卒業生進路状況調査結果について	高校教育課

平成30年度（2018年度）山口県立学校職員（実習助手・ 寄宿舍指導員）採用候補者選考試験の実施について

教 職 員 課

1 選考区分、志願区分、採用見込者数及び職務の概要

職種	選考区分	志願区分	採用見込者数	職務の概要	
実習助手	一般選考	普通教科	2人程度	普通教科の実験又は実習について、教諭の職務を助ける。	
		農 業	土木造園林業系	1人程度	農業の実験又は実習について、教諭の職務を助ける。
		工 業	機械系	2人程度	工業の実験又は実習について、教諭の職務を助ける。
			電気系	1人程度	
			土木建築系	1人程度	
	水 産	食品系	1人程度	水産の実験又は実習について、教諭の職務を助ける。	
身体障害者を対象とした選考	一般選考の志願区分と同じ	1人程度	一般選考の「職務の概要」と同じ		
寄宿舍指導員	/		1人程度	特別支援学校の寄宿舍における児童、生徒の日常生活上の世話及び生活指導（食事、入浴等日常生活全般に関わる指導）に従事する。（夜間勤務有り。）	

2 受験資格

昭和43年4月2日から平成12年4月1日までに生まれた者
実習助手（農業・工業・水産）については、別に資格要件が必要

3 志願書類等の受付期間

平成29年9月14日（木）から10月3日（火）まで

4 試験の期日・場所

- (1) 期 日 平成29年10月29日（日）
- (2) 場 所 山口県セミナーパーク

5 試験の内容

- (1) 実習助手（普通教科）・寄宿舍指導員
教養試験、小論文、面接、適性検査
- (2) 実習助手（農業・工業・水産）
教養試験、専門教科試験、面接、適性検査

6 採用候補者名簿登載予定者の発表等

- (1) 日 時 平成29年11月24日（金）午前9時
- (2) 内 容 採用候補者名簿登載予定者の受験番号を掲載
- (3) 場 所 山口県庁エントランスホール
山口県教育委員会の教職員課のホームページ

平成30年度（2018年度）山口県立学校職員（船員）採用候補者 選考試験の実施について

教 職 員 課

1 選考職種、採用見込者数及び職務の概要

選考職種	採用見込者数	職 務 の 概 要
通信長	1人	山口県・福岡県・長崎県が共同運航する実習船「海友丸」に乗り組み、通信長業務に従事する。

2 任期

平成30年4月1日～平成35年3月31日（5年間）

3 受験資格

平成30年4月1日以降の乗船が可能な者で、次のア又はイを満たす者
ア 1級海技士（通信）の免許を有する者又は平成30年3月31日までに当該免許を取得する見込みの者
イ 2級海技士（通信）の免許かつ3級海技士（電子通信）以上の免許を有する者又は平成30年3月31日までに当該免許を取得する見込みの者

4 志願書類等の受付期間

平成29年9月14日（木）から10月3日（火）まで

5 試験の期日・場所

- (1) 期 日 平成29年10月29日（日）
- (2) 場 所 山口県セミナーパーク

6 試験の内容

口述試験

7 採用候補者名簿登載予定者の発表等

- (1) 日 時 平成29年11月24日（金）午前9時
- (2) 内 容 採用候補者名簿登載予定者の受験番号を掲載
- (3) 場 所 山口県庁エントランスホール
山口県教育委員会の教職員課のホームページ

平成29年3月公立高等学校等(全日制・定時制)卒業生 進路状況調査結果について(概要)

※ 公立高等学校及び中等教育学校後期課程についての調査

【概要】

- 「大学等進学者」「専修学校進学者」及び「就職者」の割合に大きな変化はない。
- 「その他」の割合は低い状態を維持しており、進路決定率は高い。

卒業生数

8,134人 (前年度比9人増加)

大学等進学者

- 全卒業生のうち「大学等進学者」の割合は44.9%
(前年度より0.3ポイント増加)・・・【第1表】
 - ・ 大学等進学者のうち「国公立大学への進学者」の割合は88.1%
(前年度より0.2ポイント増加)・・・【第2表】
 - ・ 大学進学者のうち進学者数が最も多い系統は「商学・経済学」で、その割合は20.7%
(前年度より0.8ポイント増加)・・・【第3表】
 - ・ 大学進学者のうち進学者数が最も増加した系統は「工学」で、その割合は15.5%
(前年度より1.2ポイント増加)・・・【第3表】

専修学校等進(入)学者

- 全卒業生のうち「専修学校等進(入)学者」の割合は22.5%
(前年度より0.6ポイント減少)・・・【第1表】
 - ・ 専修学校等進(入)学者のうち最も多い区分は「医療」で、その割合は27.6%
(前年度より0.8ポイント増加)・・・【第6表】

就職者

- 全卒業生のうち「就職者」の割合は29.8%
(前年度より0.1ポイント増加)・・・【第1表】
 - ・ 就職者のうち最も多い職業区分は「製造・加工従事者」で、その割合は32.5%
(前年度より2.3ポイント増加)・・・【第7表】
 - ・ 卒業生のうち就職する割合が最も高い学科は「工業科」で、その割合は85.6%
(前年度より1.0ポイント増加)・・・【第8表】

その他

- 全卒業生のうち「その他」の割合は2.0%
(前年度より0.1ポイント増加)・・・【第1表】
- ※ 「その他」とは、一時的な仕事に就いた者、家事手伝いをしている者、外国の大学等に入学した者等

平成29年3月県立特別支援学校高等部卒業生 進路状況調査結果について(概要)

○「就職者」の割合は堅調に推移

卒業生数 252人（前年度比3人増加）

大学等進学者

- 全卒業生のうち「大学等進学者」の割合は4.4%・・・【第1表】
（前年度より1.2ポイント増加）
 - ・ 「専門学校への進学者」数は2名（前年度より1名減少）・・・【第2表】
 - ・ 「特別支援学校専攻科への進学者」数は0名（前年度より1名減少）
・・・【第2表】
 - ・ 「職業能力開発校への進学者」数は7名（前年度より3名増加）
・・・【第2表】

就職者

- 全卒業生のうち「就職者」の割合は35.7%・・・【第1表】
（前年度より4.8ポイント増加）
 - ・ 最も多い「運搬・清掃等従事者」の割合は35.6%・・・【第3表】
 - ・ 「生産工程従事者」の割合は24.4%・・・【第3表】
 - ・ 「サービス職業従事者」の割合は22.2%・・・【第3表】
 - ・ 「販売従事者」の割合は5.6%・・・【第3表】

福祉施設利用者

- 全卒業生のうち「福祉施設利用者」の割合は54.4%・・・【第1表】
（前年度より7.5ポイント減少）
 - ・ 福祉施設利用者のうち「就労系サービス（就労移行支援・就労継続支援）」利用者数は75名。福祉施設利用者全体のほぼ半数を占める。・・・【第4表】
 - ・ 福祉施設利用者のうち「生活介護」利用者数は、45名・・・【第4表】

その他

- 全卒業生のうち「在宅者」の割合は5.5%・・・【第1表】
（前年度より1.5ポイント増加）

意見交換

番号	件名	主管課
1	学力向上に係る取組の現状と課題について	義務教育課

学力向上に係る取組の 現状と課題について

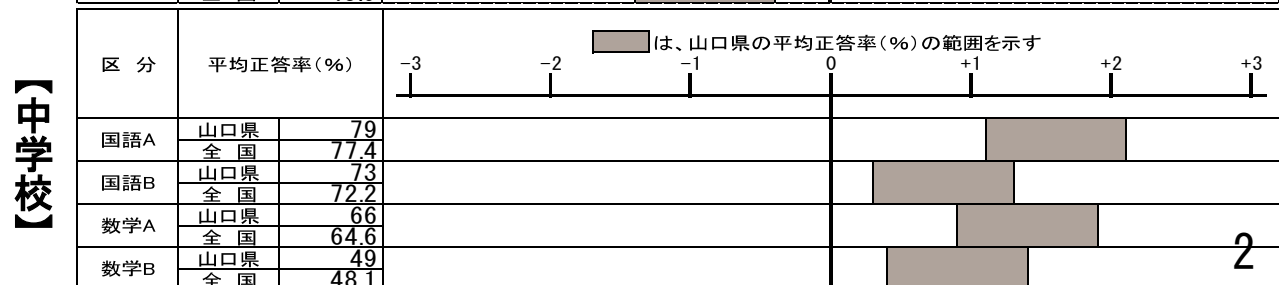
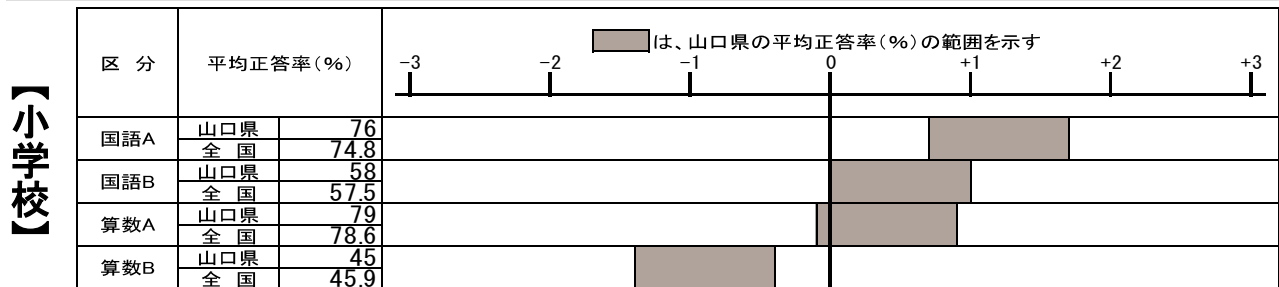
教育庁義務教育課

平成29年度 全国学力・学習状況調査結果について 教科に関する結果

【全国と県の平均正答率】

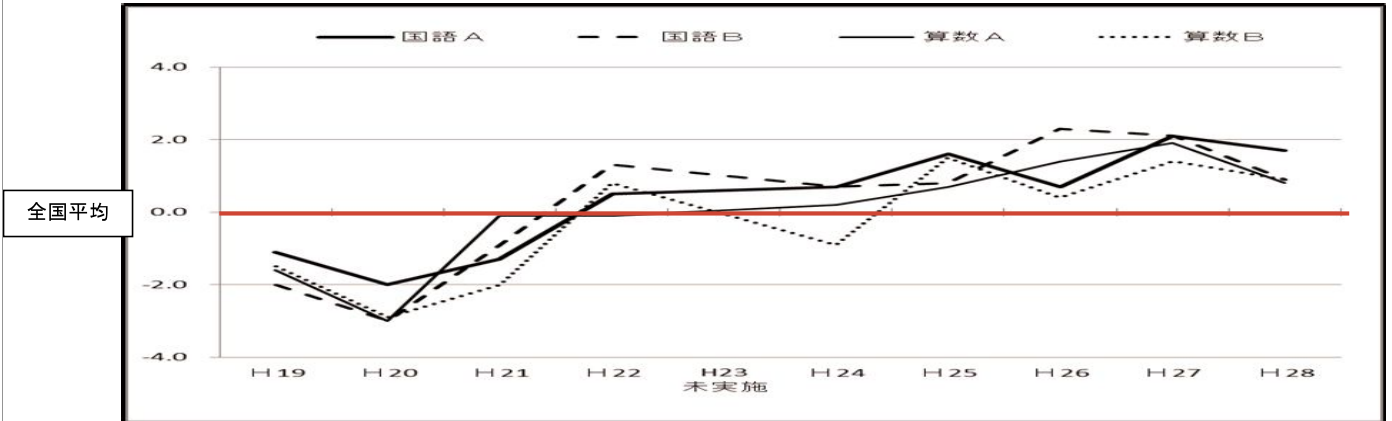
(%)

小学校			中学校		
区分	山口県	全国	区分	山口県	全国
国語A	76 (75.5～76.4)	74.8	国語A	79 (78.5～79.4)	77.4
国語B	58 (57.5～58.4)	57.5	国語B	73 (72.5～73.4)	72.2
算数A	79 (78.5～79.4)	78.6	数学A	66 (65.5～66.4)	64.6
算数B	45 (44.5～45.4)	45.9	数学B	49 (48.5～49.4)	48.1

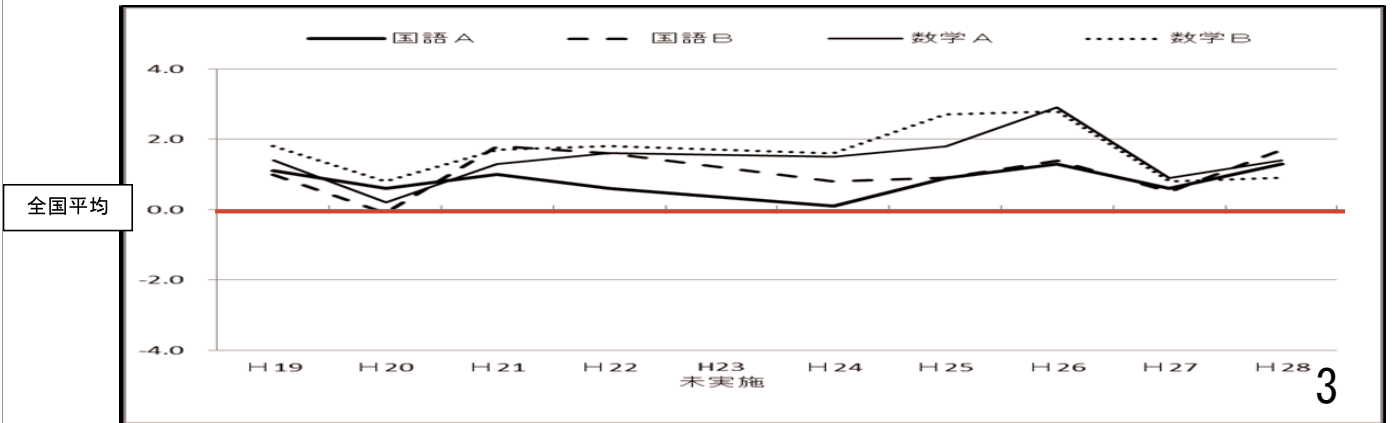


全国の平均正答率との経年変化 (H19~H28)

【小学校】

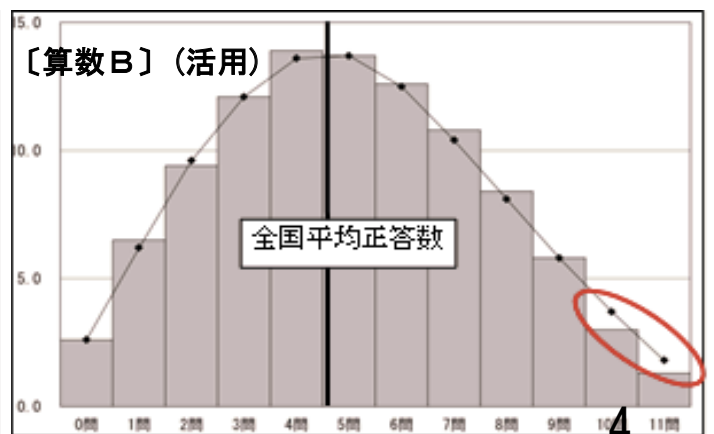
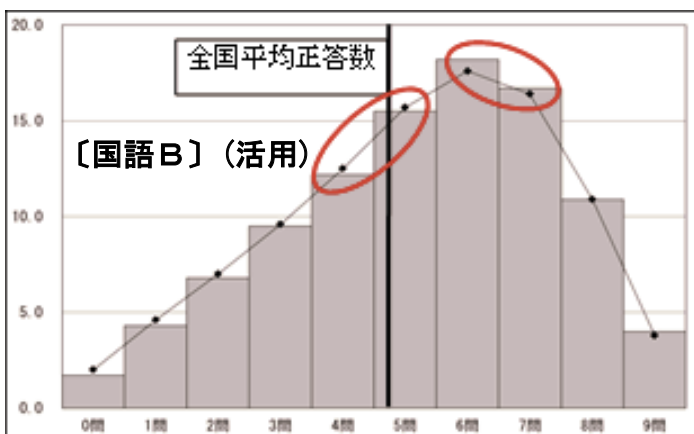
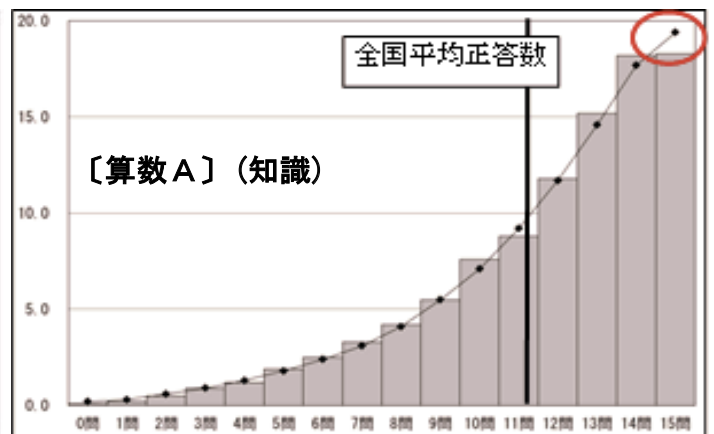
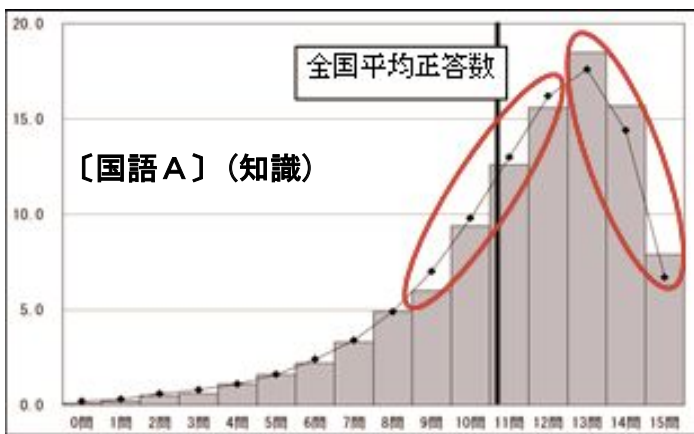


【中学校】



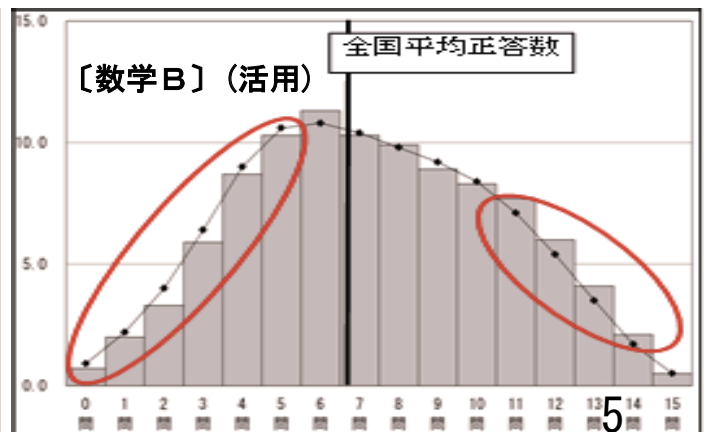
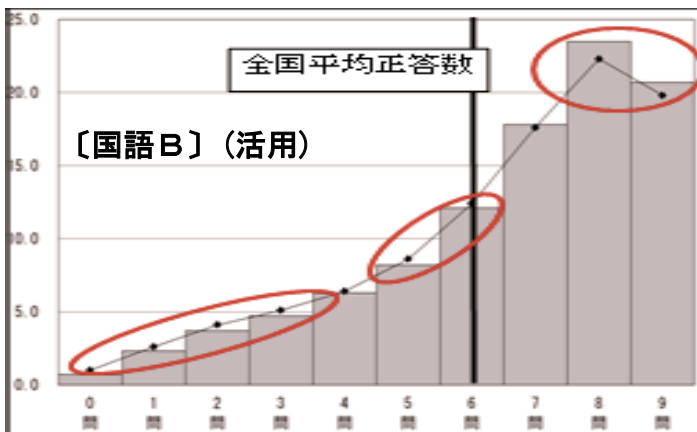
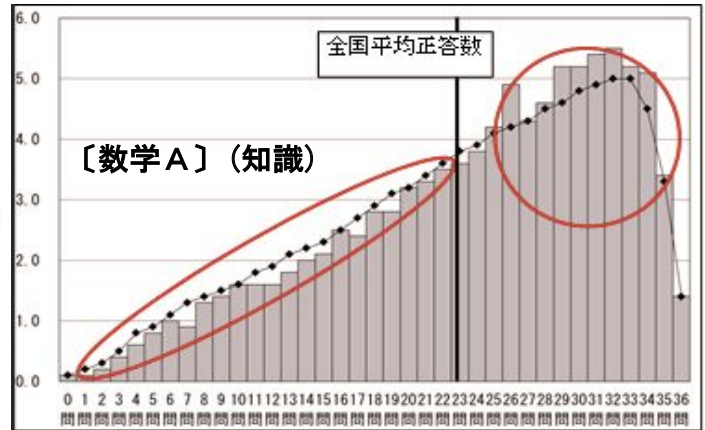
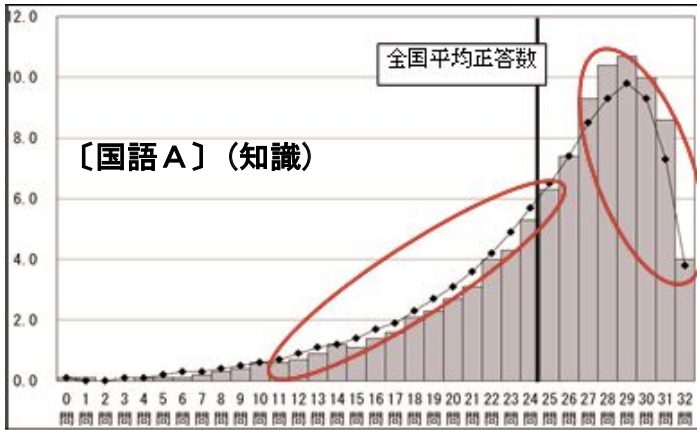
3

区分ごとの正答数の分布 (小学校)



4

区分ごとの正答数の分布 (中学校)



課題の見られる特徴的な問題

小学校算数B「見かけの月の大きさ」

月の直径を、こまか硬貨の直径に置きかえて考えます。

1円玉、100円玉、500円玉の直径は、それぞれ下のとおりです。

硬貨の種類とその直径

1円玉	100円玉	500円玉
		
20 mm	22.6 mm	26.5 mm

(2) 「最小の満月の直径」を1円玉の直径としたときに、「最小の満月の直径」をもとにして14%長くなっている「最大の満月の直径」は、100円玉と500円玉のどちらの直径に近いですか。

下の1と2から選んで、その番号を書きましょう。

また、選んだ硬貨のほうが「最大の満月の直径」に近いと考えたわけを、言葉や式を使って書きましょう。

- 1 100円玉
- 2 500円玉

【正答】

番号) 1

例) 最大の満月の直径は $20 \times 1.14 = 22.8$ で、22.8mmです。

100円玉の直径との差は $22.8 - 22.6 = 0.2$ で、0.2mmです。

500円玉の直径との差は $26.5 - 22.8 = 3.7$ で、3.7mmです。

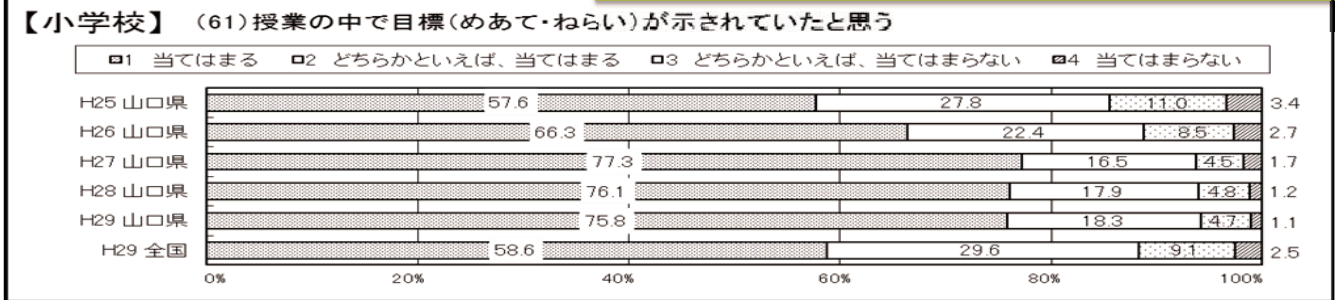
100円玉の直径との差のほうが小さいので、100円玉のほうが近いです。

	正答率
山口県	10.3%
全国	13.2%

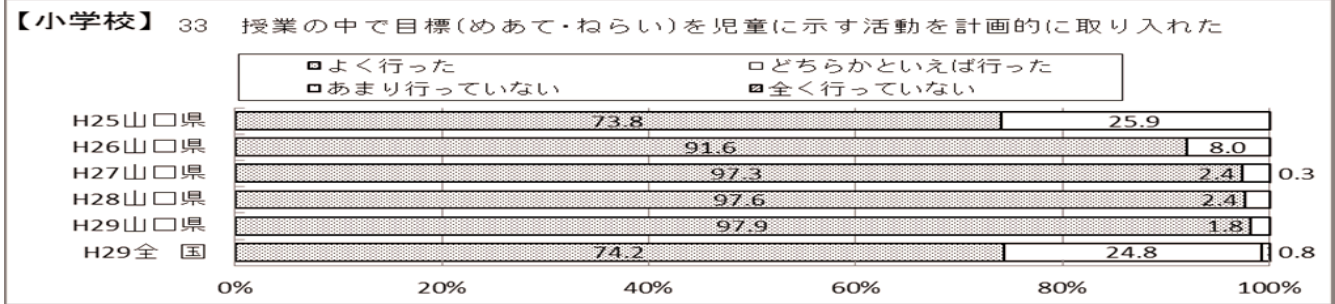
授業改善～児童生徒質問紙と学校質問紙との関連設問～

【児童質問紙調査】

授業のめあての提示（小学校）



【学校質問紙調査】



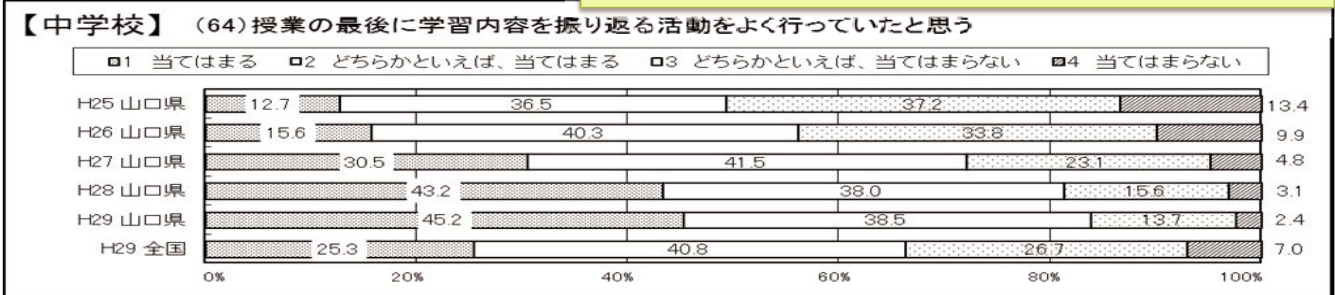
	学校質問紙	児童質問紙	差
	「よく行った」・「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の割合	
29年度	99.7%	94.1%	5.6

7

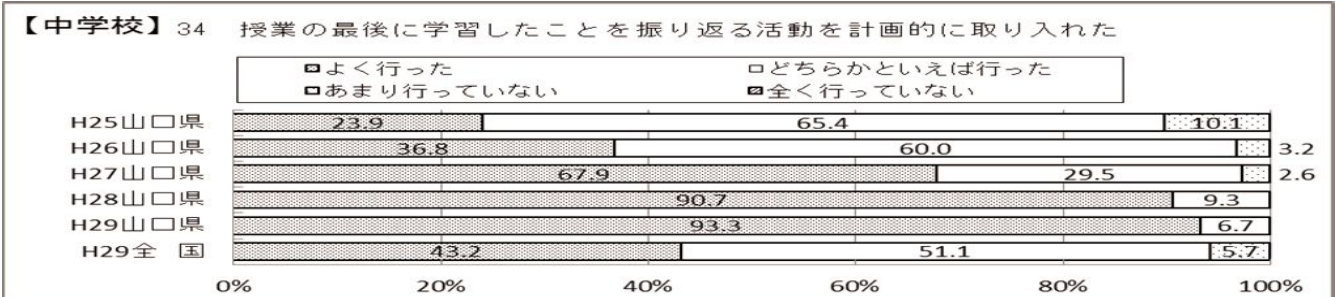
授業改善～児童生徒質問紙と学校質問紙との関連設問～

【生徒質問紙調査】

授業の振り返りの実施（中学校）



【学校質問紙調査】



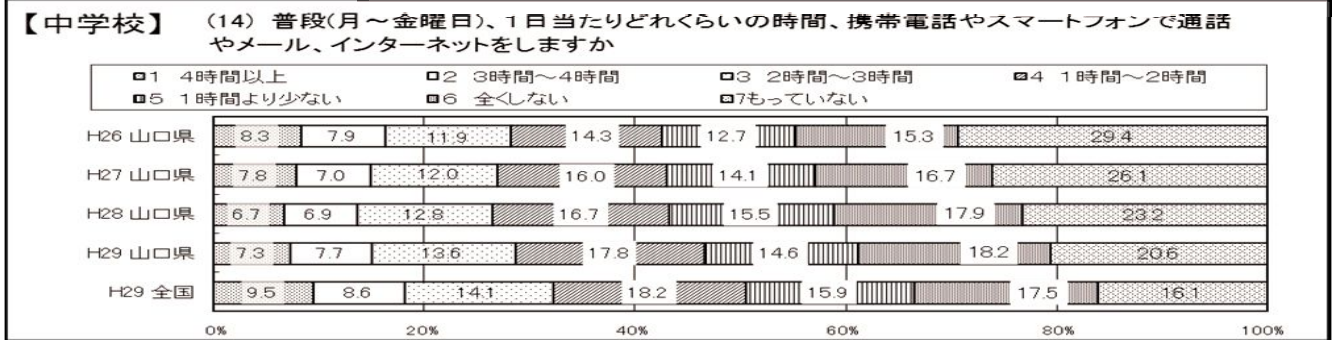
	学校質問紙	生徒質問紙	差
	「よく行った」・「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合	
29年度	100.0%	83.7%	16.3

8

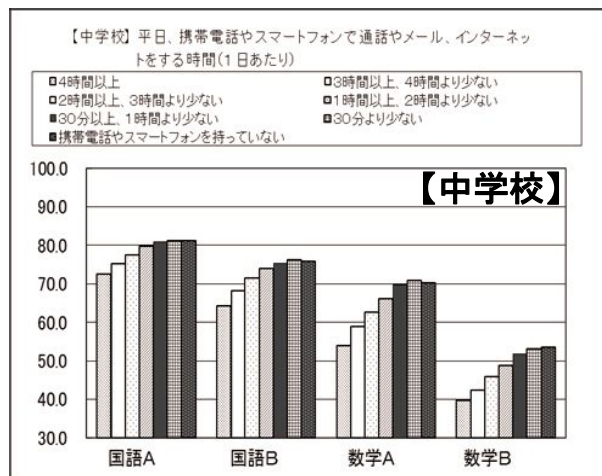
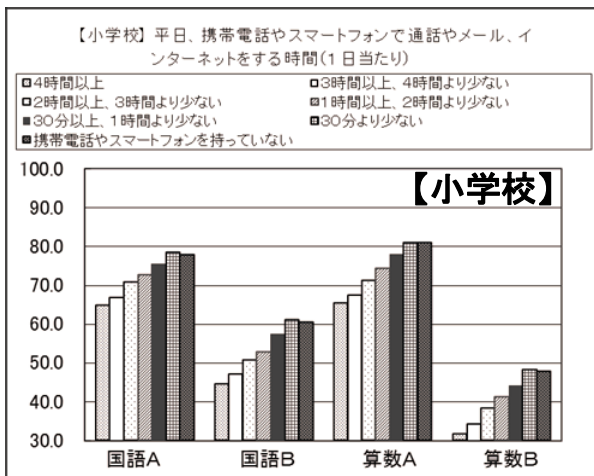
児童生徒質問紙調査の結果

【生徒質問紙調査】

平日の携帯やスマートフォンの利用時間（中学校）



【教科の正答率との関係】クロス集計

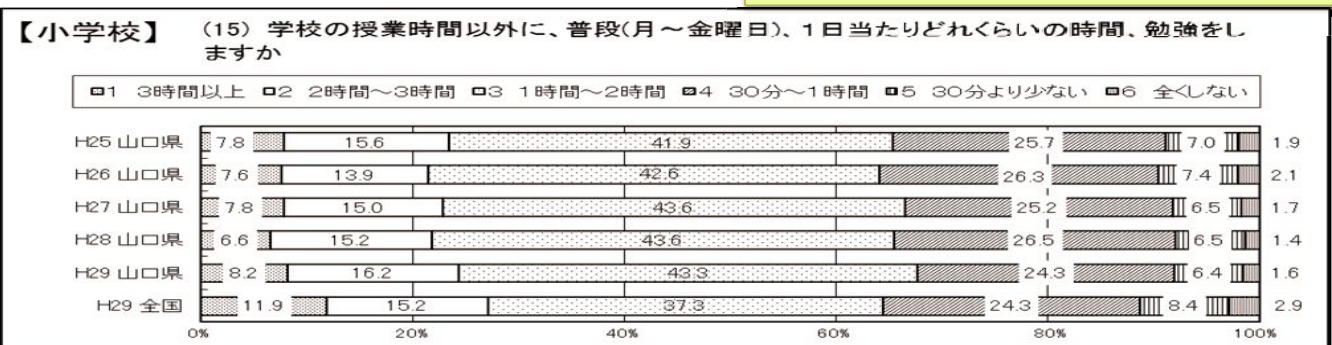


9

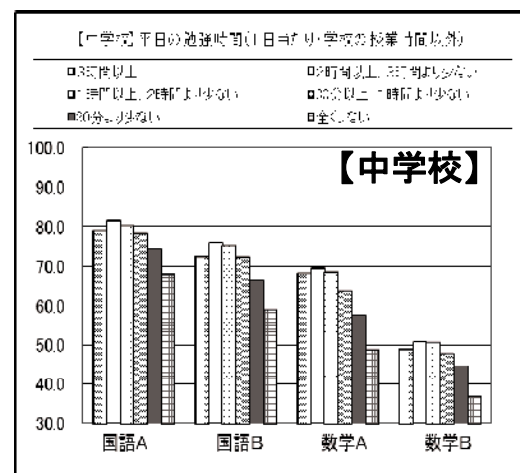
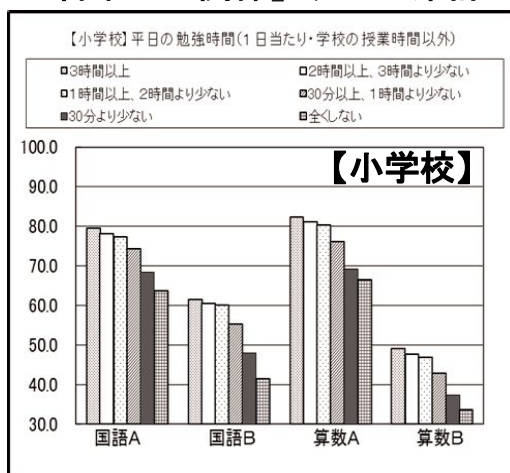
児童生徒質問紙調査の結果

【児童質問紙調査】

平日の学習時間（小学校）



【教科の正答率との関係】クロス集計

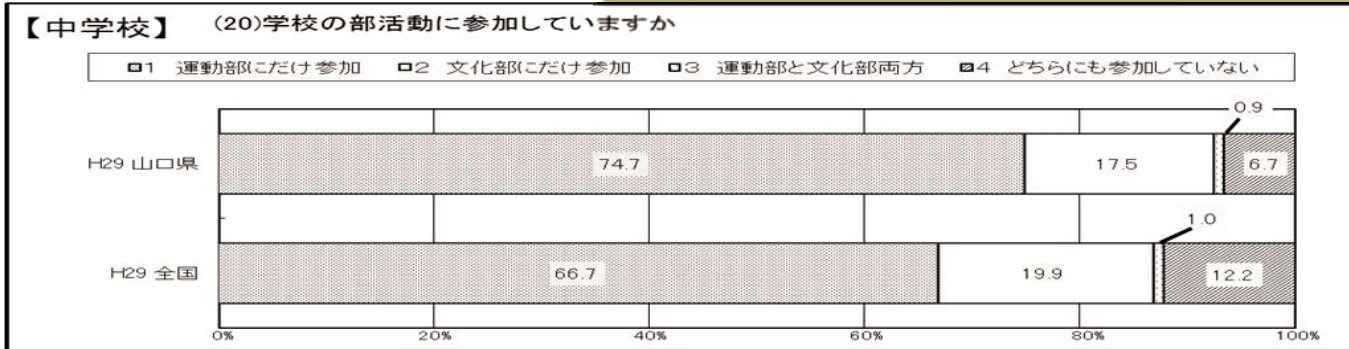


10

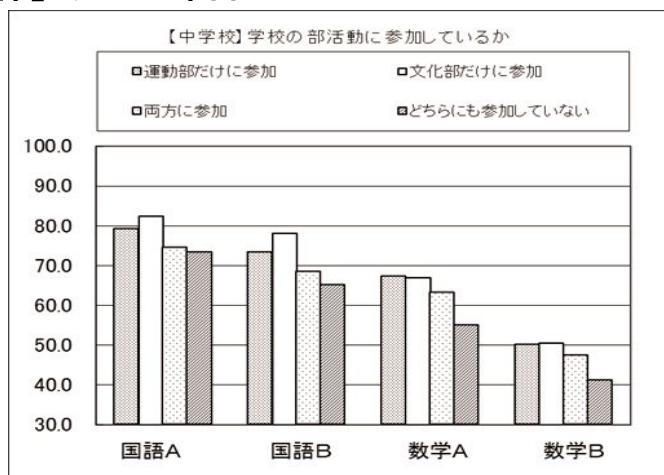
児童生徒質問紙調査の結果

【生徒質問紙調査】

学校の部活動への参加（中学校）



【教科の正答率との関係】クロス集計

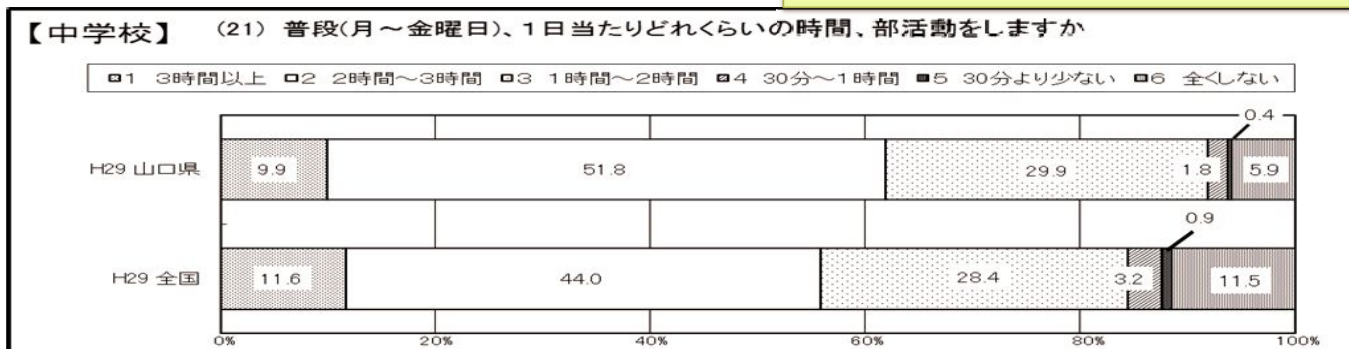


11

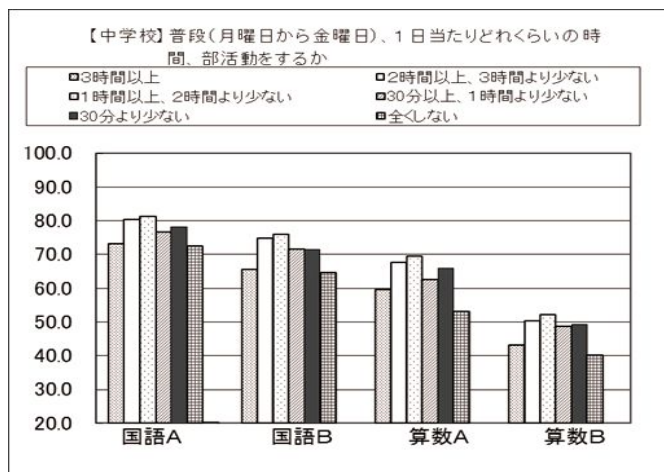
児童生徒質問紙調査の結果

【生徒質問紙調査】

部活動の時間（中学校）



【教科の正答率との関係】クロス集計



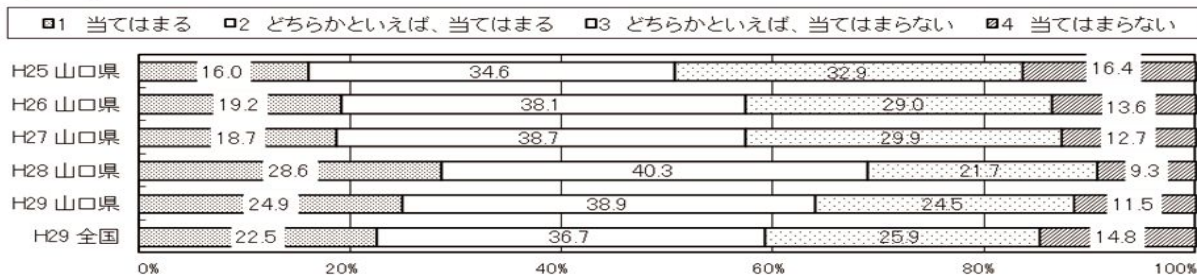
12

児童生徒質問紙調査の結果

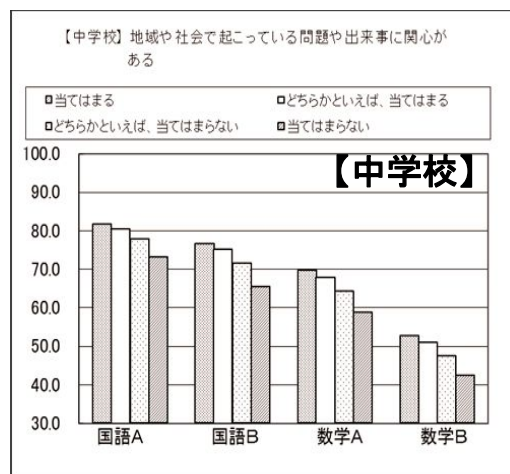
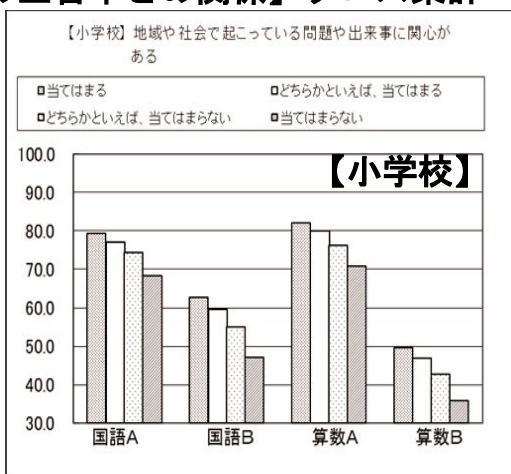
【生徒質問紙調査】

地域や出来事への関心（中学校）

【中学校】（43）地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある



【教科の正答率との関係】クロス集計



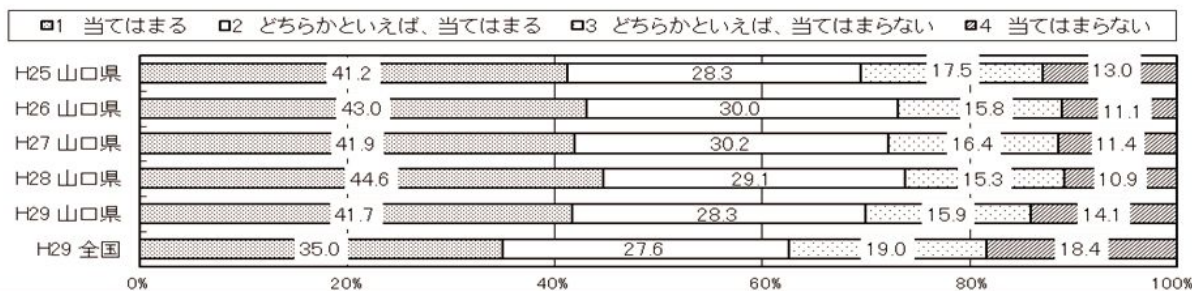
13

児童生徒質問紙調査の結果

地域行事への参加

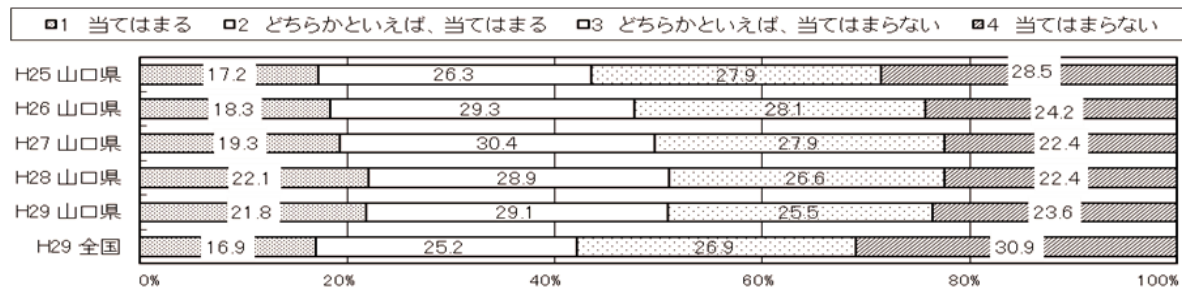
【小学校】

【小学校】（40）今住んでいる地域の行事に参加している



【中学校】

【中学校】（42）今住んでいる地域の行事に参加している



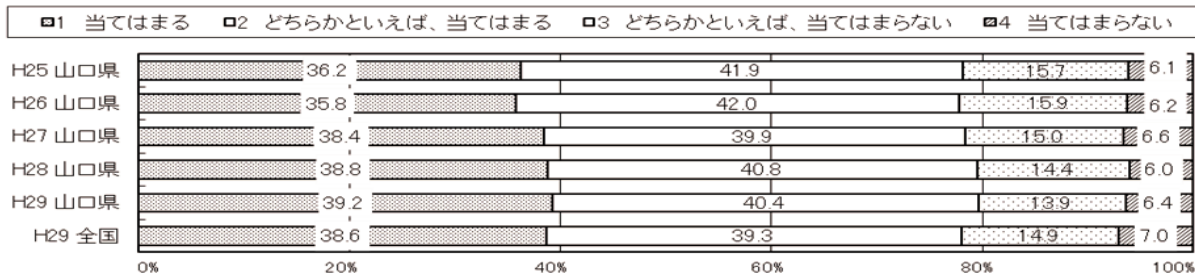
14

児童生徒質問紙調査の結果

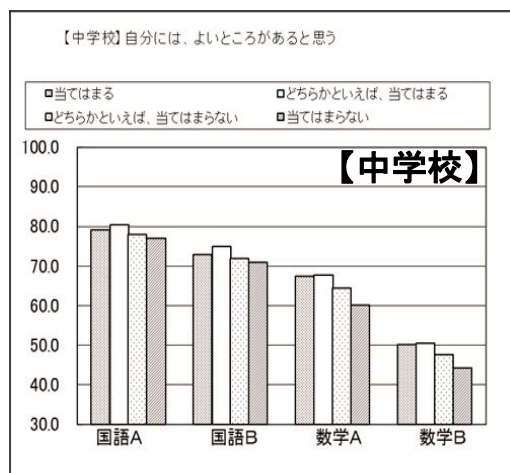
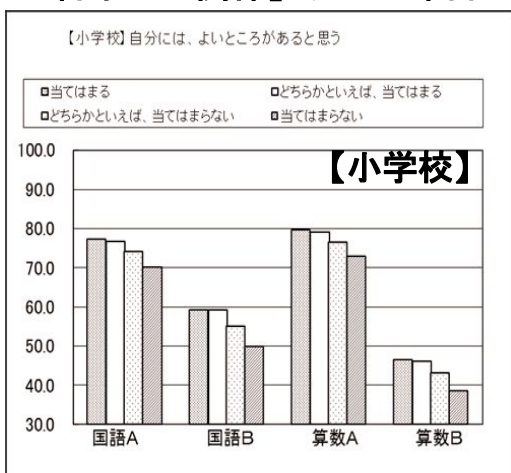
【児童質問紙調査】

自分にはよいところがある（小学校）

【小学校】（6）自分には、よいところがあると思う



【教科の正答率との関係】クロス集計



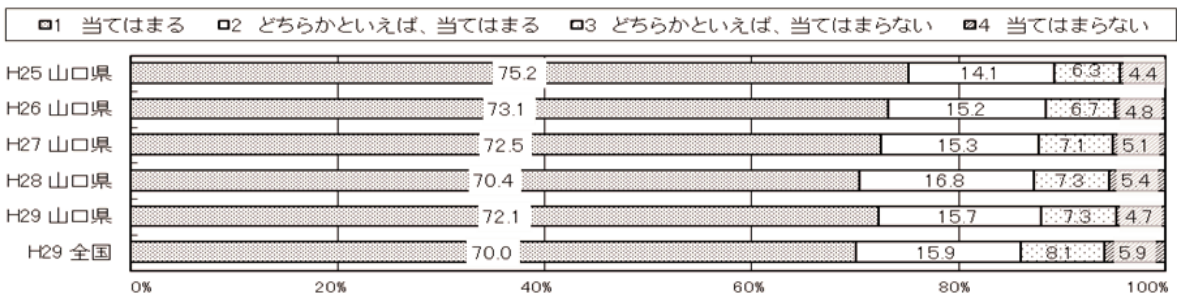
15

児童生徒質問紙調査の結果

将来の夢や目標をもっている

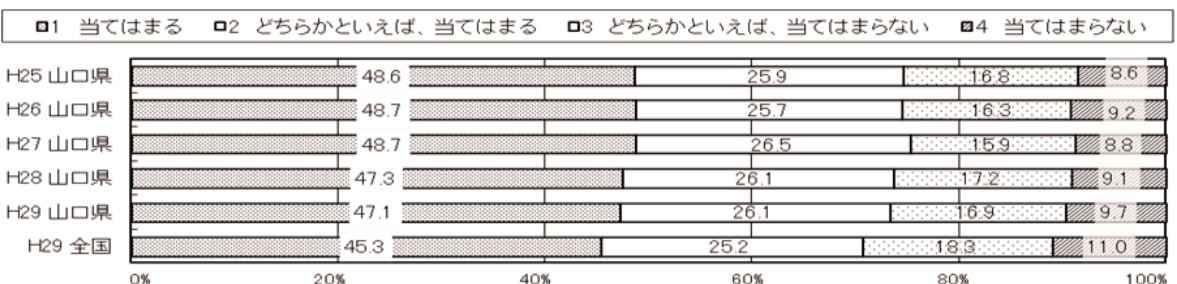
【小学校】

【小学校】（10）将来の夢や目標を持っている



【中学校】

【中学校】（10）将来の夢や目標を持っている



16

学力向上に向けた今後の取組

各学校の課題解決に向けた取組が具体化され、適切な実施が図られるよう、各学校、市町教委、県教委の連携を一層強化

市町教委

県教委との合同研修会等での、数学的な思考力・表現力の育成等、本県の学力課題の共有と、改善に向けた施策や各学校の課題解決に向けた具体的な支援方法等の共通理解

県教委

市町教委指導主事や学力向上推進リーダー等との情報共有と、各学校の課題解決に向けた支援

17

学力向上に係る取組の現状 ～今年度の取組～



18

やまぐちっ子の学力を育む検証・改善委員会からの10の提言

(平成29年1月)

1 学力向上に向けた学校の組織的な取組の一層の充実

- 山口県学力定着状況確認問題と学力分析支援ツールを引き続き活用し、全国学力・学習状況調査と合わせた年間2回の検証改善サイクルによる課題解決に向けた全校体制での取組を徹底させること
- 見通しと振り返りの充実、「主体的・対話的で深い学び」の過程の計画的な実施、板書型指導案や授業評価の活用、小学校の教科担任制の実施等、組織的な授業改善に向けた取組の一層の充実を促進すること

2 教員の授業力のさらなる向上

- 研修会等の開催により、キャリアステージに応じた個々の教員の指導力向上を図ること
- 校内のミドルリーダーや学力向上推進リーダー・推進教員等を活用した日常的、組織的な授業改善の取組の活性化を促進すること
- 既存の授業改善資料の活用や、研究指定校、やまぐち総合教育支援センターとの連携等により、継続課題の解決に向けた指導方法の研究を推進するとともに、成果の普及に努めること

3 学力定着・向上と継続的な学力課題の解決に向けた学習環境の整備

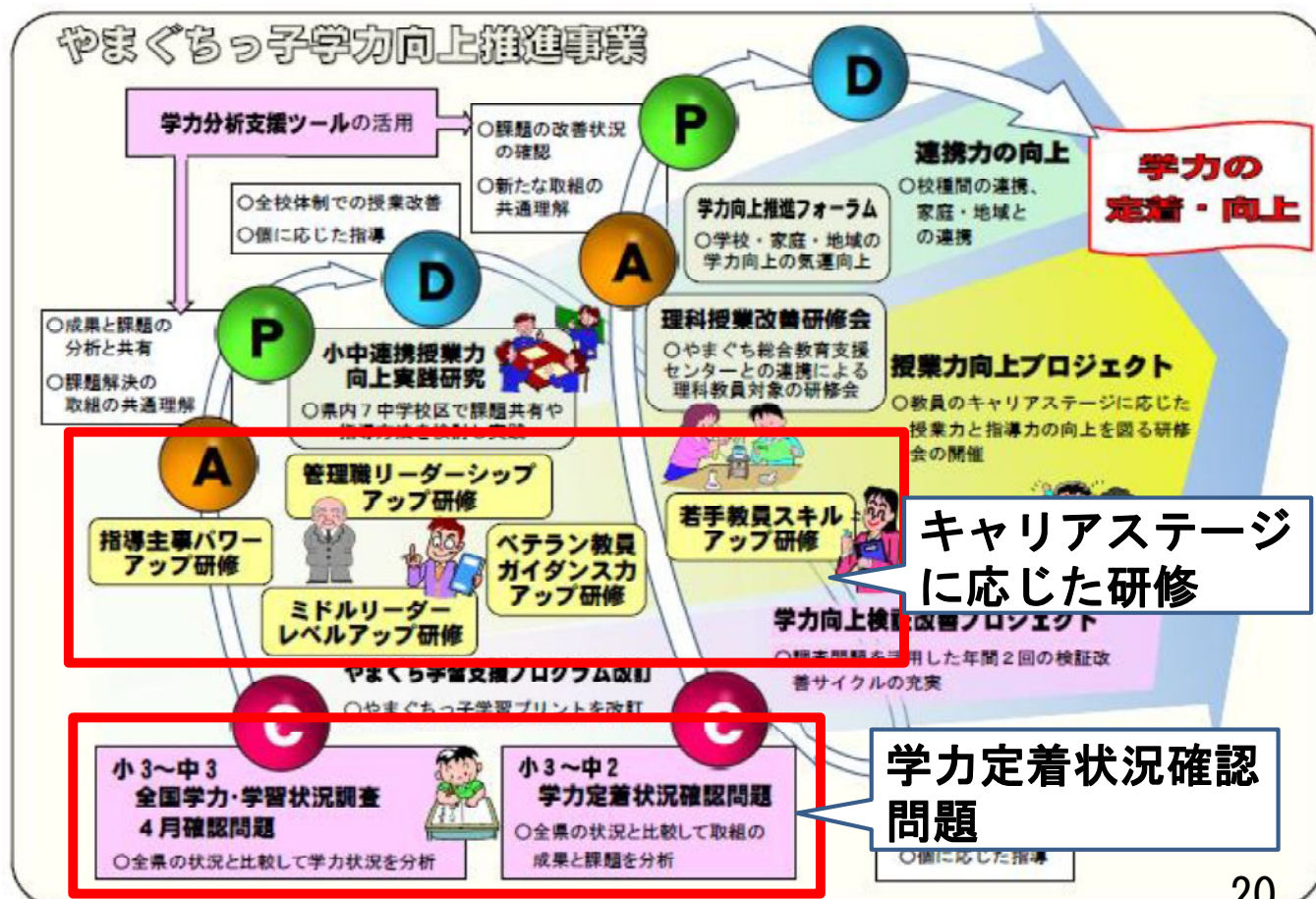
- 合同研修会や乗り入れ指導、研修会への相互参加により、幼保小連携・小中連携・中高連携の一層の充実を促進すること
- 少人数指導や補充学習の計画的な実施、個に応じたきめ細かな学習支援を徹底する体制づくりを推進すること

4 「社会に開かれた教育課程」を見据えた、家庭・地域との連携・協働の推進

- 家庭との情報共有により学習習慣の確立を図る取組を促進すること
- コミュニティ・スクールや地域協育ネットの仕組みを生かし、地域の人材や歴史、伝統文化、産業等、地域の教育資源の積極的な活用を推進すること
- 情報発信の工夫により、教育施策や学校の効果的な取組の周知・普及に努めること

19

学力向上に向けた学校の組織的な取組の一層の充実



20

『社会に開かれた教育課程』を見据えた、 家庭・地域との連携・協働の推進

山口県教育委員会

やまぐち学習支援プログラム

知識・技能を活用して課題を解決する力を高める授業作り

やまぐちっ子学習プリント

ステップ1からステップ4まで
自分で問題に取り組み、

小学校

国語

算数

理科

中学校

国語

数学

理科

社会

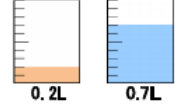
やまぐちっ子 学習プリント

小 数 ステップ3 月 日

小学校 3年 算数

年 組 氏名

1 0.2Lのしそエキスに0.7Lの水を入れました。何Lのジュースができましたでしょう。



①式に書いてみましょう。

式

こたえ

②0.7Lと0.2Lのちがいは何Lでしょう。

式

こたえ

2 次の計算をしましょう。

- ① $0.3 + 0.6$ ② $0.7 + 0.4$ ③ $1.7 + 0.6$
④ $0.9 - 0.2$ ⑤ $1 - 0.6$ ⑥ $1.2 - 0.4$

3 の重さは3.2kgで、 の重さは5.6kgです。

①あわせて何kgでしょう。 ②ちがいは何kgでしょう。

筆算を使って考えましょう。

こたえ

こたえ

4 次の計算を筆算でしましょう。

- ① $\begin{array}{r} 1.5 \\ +2.3 \\ \hline \end{array}$ ② $\begin{array}{r} 3.6 \\ +4.5 \\ \hline \end{array}$ ③ $\begin{array}{r} 2.4 \\ +7.6 \\ \hline \end{array}$ ④ $\begin{array}{r} 7.9 \\ -1.3 \\ \hline \end{array}$ ⑤ $\begin{array}{r} 8 \\ -3.2 \\ \hline \end{array}$ ⑥ $\begin{array}{r} 3.4 \\ -1.7 \\ \hline \end{array}$

21

『社会に開かれた教育課程』を見据えた、 家庭・地域との連携・協働の推進

平成29年度山口県学力向上推進フォーラムの御案内(第1次案内)

県教委では、学校・家庭・地域との連携協力を深め、社会総がかりで児童生徒の学力向上を図ろうとする気運を高めることを目的として、「平成29年度山口県学力向上推進フォーラム」を開催いたします。

御多用中のことは存じますが、多数の御参会を賜りたく御案内申し上げます。

- 1 期 日 平成29年11月15日(水)
2 主 催 山口県教育委員会
3 共 催 下関市教育委員会
4 会 場 下関市立川中小学校 ・ 下関市立川中中学校



5 日 程

9:00	9:30		10:00		10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00
9:25	10:15	移	11:40	昼	12:15	14:15	16:00	16:10								
受	川公		川公	休	開	実	廣	開								
付	中関	動	中関	み	会	験	演	会								
	小関		中関		行	先		行								
	学関		学関		事	演		事								
	校Ⅰ		校Ⅱ													

- 6 実践発表 「下関市の取組」 下関市教育委員会
「川中中学校区の取組」 下関市立熊野小学校

- 7 講 演 演題「(仮)生涯を見通した資質・能力の育成と新しい学習指導要領の方向性」
講師 独立行政法人大学入試センター 審議役 大杉 住子 氏
(前 文部科学省初等中等教育局教育課程課教育課程企画室長)



今後の課題

- 特定の学習内容の定着や、身に付けた知識・技能を活用して思考、判断、表現する力の育成が十分ではないこと
- 各学校の取組が、その学校の課題に応じた取組になっていない場合があること
- 若手教員の授業力の向上を図ること
- 学校、家庭、地域が連携・協働した学力向上の取組を更に進める必要があること



23

意見交換の視点

- 全国学力・学習状況調査の結果について**
- 学校、家庭、地域が連携・協働した学力向上の取組について**

24